

◆コロナ禍とジェンダーギャップ

◆“ソーシャルディスタンス”と“フィジカルディスタンス”の  
違っていて何？

◆セミナー報告

◆おすすめ本紹介～新しい本が入りました！～

# Fine

(No.51)

いずみさの男女共同参画つうしん

## コロナ禍とジェンダーギャップ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会の歪みが様々なかたちで噴出しており、とりわけ女性に対して非常に大きな影響を与えています。

### ★医療従事者の70%は女性

国連は、職種の性別分業の傾向が、女性の新型コロナウイルスへの感染リスクを高めると警鐘を鳴らしています。世界的にみると、ウイルスと最前線で戦っている医療従事者の70%は女性です。

日本の場合は、医師は約30%~40%と少ないですが、看護師や保健師などは、約80%が女性であり大半を占めています。そのため、日本でも女性の医療従事者の割合は世界の傾向と大きく変わりません。

### ★男女の経済格差がより深刻に

新型コロナウイルスによる自粛生活の経済的打撃の影響も、男女間で平等ではありません。

世界から見ても、G7と呼ばれる主要先進国の中で、日本の男女間賃金格差は最も高く、女性の給料は正社員であっても男性の75%程度であるという結果が出ています。雇用形態についても、経済悪化の影響を特に受けやすい非正規雇用の労働者の割合をみると、女性が約70%を占めており、男性の倍以上になっています。

非正規雇用で働く女性の就業先は、医療・福祉を含む対人サービス業である場合が多く、営業自粛と経済悪化によって職を失うのも、やはり女性が多くなります。総務省の「労働力調査」によれば、非正規雇用者はコロナ禍の中、大幅に減少しています。例えば、2020年3月における35~44歳の非正規雇用者数は、前年同月時点に比べ、男性は3万人減少したのに対し、女性は25万人も減少しました。

こうした状況において、女性やジェンダー平等の視点を欠いた対策が、既存の差別や格差を拡大し、問題をより悪化させる恐れも指摘されています。

問題の根底にあるのは、性別役割分担意識や、「男性稼ぎ主」モデルを前提として根強く残る家父長制的な考え方です。この危機下において、医療と社会の崩壊を防ぐためにも意思決定の場における女性の参加を格段に増やし、あらゆる対策をジェンダー平等の視点から見直す必要があるのではないのでしょうか。